

平成 30 年 5 月の解説（府県天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、天気は数日の周期で変化しましたが、北日本や東・西日本日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。2 日から 3 日にかけてと 7 日から 9 日にかけては、低気圧が日本付近を通過して、西日本から北日本の広い範囲で雨となり、大雨となった所がありました。また、東シナ海からのびる前線が日本の南を南下したため、奄美地方で 7 日頃、沖縄地方で 8 日頃に梅雨入りしました（速報値）。低気圧が通過した後は、日本付近に寒気が流れ込んだため、期間の後半は全国的に気温が平年を下回りました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、東・西日本太平洋側から沖縄・奄美にかけては高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。16 日は多くの地点で真夏日となりました。17 日から 19 日にかけて、東北地方を中心に上空の寒気や前線、湿った空気の影響で局地的に大雨となり、浸水などの被害が発生しました。

下旬も高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、北日本では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。東日本太平洋側や西日本では、期間の後半を中心に本州の南岸を進む低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。九州南部で 26 日頃、九州北部地方（山口県を含む）と四国地方では 28 日頃に梅雨入りしました（速報値）。

月平均気温は、東日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・西日本で高くなりました。月降水量は、北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東・西日本で多くなりましたが、沖縄・奄美ではかなり少なくなりました。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった一方、東・西日本日本海側では少なく、北日本と西日本太平洋側では平年並でした。

【5 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 88%で例年値（注）より 2 ポイント高く、明後日予報は 83%で例年値より 1 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は東北地方以外で例年値以上となり、特に沖縄地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。明後日予報は北海道地方と東日本、九州南部地方、沖縄地方で例年値を上回り、特に沖縄地方では例年値よりも 13 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.6 で、すべての地方で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.2 で、すべての地方で例年値を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7 月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期でもあります。

梅雨期は、その他の期間に比べて総降水量が多くなり、梅雨末期を中心に、集中豪雨により大きな災害をもたらすことがあります。このような天気が予想されている場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに留意してください。